



学術会議任命拒否に抗議

山陰地域 研究者ネットが声明

「学問の自由」を守る

菅義偉首相が行った日本学術会議会員の任命拒否に危機感を持った山陰両県（島根・鳥取）の研究者らでつくる「『学問の自由』を求める山陰地域の研究者ネットワーク」は4日、任命拒否の撤回と「学問の自由」を守る声明を発表しました。同ネットワーク事務局の関耕平・島根大学法文学部教授、高山寿雄・鳥取大学医学部元教授ら11氏が松江市内で記者会見し、研究者や市民、学生に賛同を訴えました。

今年1月から賛同を呼びかけ、約1カ月間で大学機関の研究者のみならず、考古学会や史学会の研究者を含め、賛同者は175人（4日現在）に達しています。

声明では、任命拒否は憲法の「学問の自由」に反すると批判し、研究者の学問の問題だけにとどまらない社会全体の問題と指摘。島根考古学会の松本岩雄・島根県立八雲立つ風土記の丘顧問らは「権力にとって気に入らない意見は排除するということを許せば、国民のさまざまな意見も聞き入れられなくなってしまう」と警鐘を鳴らしました。

今後は、声明を政府など関係機関へ送付するとともに、市民にも広く知らせていくシンポジウムに取り組むとしています。

しんぶん赤旗 電子版 2021年2月5日【政治総合】